

東北新報

毎月一日発行
編輯兼發行人 藤 慎太郎
印刷所 藤 慎太郎
福島縣平町村木町二〇
東北新報社

七周年を迎へて

大日本帝國として全世界に魁たる神武天皇の皇紀明治大帝の御代は四十有五年の久しきにわたらせられ御代は大正となり今又昭和の御代も早や十二年を重ね其御徳は日に月に海外に轟き渡り内外共に多事多難の今日我國の威力は實に甚しく廣大され全世界をして統一するの機運は遠からぬ處である。

今や吾東北新報社は昭和六年五月の發刊に依るもので其間幾多の難關を切りぬけ茲に七週年を迎へました事は是れ偏に諸賢が熱烈なる御後援の賜と深く感謝の意を表する者であります。想ふに七ヶ年の昔に其當時を考ふる時にうたた耐ひ難き感ありです不肖私として斯業には皆無經驗なきのみか無資本の上に淺學とては取る處無き有様でありましたが管押の一手に過ぎず誠に痛切の極みでありました、此後は諸賢の御指導に依り斯業の爲め一段の努力を重ねたいと思ひ斯界をして改善たらしめ以て通信機關の天職に報ひ度いと思ひます諸賢に於かれましても尙一層の御後援を御願ひする次第であります茲に紙上を以し創刊七週年を迎ふるに至り諸賢に對し御挨拶を申上げ御禮の詞にかへる次第であります。

昭和十二年四月一日

東北新報社

藤 陽 偉

我が郷土を想ふ (其ノ二十八)

前述の如く當平町も近く市人主義を出さず我國の美風制の實現を見る事は期日のを考へ國を愛すると共に我問題であるがそれにつけて郷土を愛する信念を深めて町民も亦市制たるの覺悟をもちたい、たゞ平窪村と持たねばならぬ然らば町民合併してまでも市制を望むとして果して其覺悟ありやと云ふ事は如何のものか我否は大に考へるものだ、一方々の及ぶ處ではないが町長翻へつて考へて見れば當平として一度位は町民大會町民として必ずしも市制を開き廣く町民の意中を聞き居るや否は疑問とするの必要はあつたと思ふが處で又市制となつて如何な町民代表たる町會議員たる福利があるや又町其儘で以上は其必要を認めずと言は如何なる損失があるやのひび其れまでだが何と云ふ二筋であるが町民一般の批ても我郷土を愛するの精神判は未だ耳に聞かぬが何もの本に定められた事とすれば五分々の言ひ分はある問題ではない、尤も今以様であるが大局より見る時其反映なき處を見ればさには都市になるとすれば多すがは名町長及び名町會議少の犠牲的はまぬかれまい員を選擧された平町民は満が体一貫の者には直接にも場一致の精神に外ならぬ事間接にも税金の上には痛切と吾人は深く感謝の意を表には思はぬが動産不動産の多しと共に名町長青沼氏の多ある人には或は一時の多年自治体に於て其統制振犠牲は直接に及ぶものと思ひ宜しきと各町議連の手腕はれるが一匹の虫を殺して力量の然らしむる點には實十四の虫を助ける意味に於いて驚入る次第ではあるま大人となつてももらいたい、されば此後大平市のものだ、然して大に伸び共現れ來りて自治体如何な存共榮の實を計り我郷土たる變化否景氣又は不景氣が新市制をばより良く進展の二大音響の來るは神ならさせる事に心懸けてほしいぬ町民吾等として不安に思ふのだ、何にも警城人種の不點であるが、町民を生かへきたる個人主義即ち支那すも殺すも時代の然らしむ

婦人として現代を想ふ

(一) 現在平町の状況を見るに最も人間として此の世に立つ近物價騰貴でサラリーマン事が出来やうぞ。大いに喉の生活も苦勞の様だ。世のさ始めた花の如く彼の精神中はこの二三年前よりは質的に何者にも恐れず強く正素になつて來た様です。そして品行良く何仕事にも恥れずすべてが進歩して居るは女同權の世の中ではない割合に人間がまだくくやば女同權の世の中ではないの點が見受けられます。つゝ、居る方は駄目であるまひだに費すな我國民の非常いか。

(二) 婦人) 智能なくして何んで一人前

貴族院議員 勳四等	金 成 通
前代議士 勳四等 神谷村長	佐藤 庄太郎
石城郡大浦村長	木村 清治
元代議士	
縣會議員	小野 晋平
縣會議員	關 内正一
縣會議員	蓮 沼龍輔
縣會議員	野 崎滿藏

石城郡町村長

井上茂作

石城郡内各

小學校長會

平營業所

諸橋久太郎

平產婆學校

諸橋元三郎

校長 清野キヨ

山崎合名會社

平藝妓屋組合

平製氷會社

平料理屋組合

松本一郎

石城郡神谷村役場

平電力

佐藤庄太郎

株式會社

後收入 佐藤長次

警城建物會社

吏員一同

平五丁目 電話六六番

校長 井上純

開平病院

院長 醫學博士 鈴木定藏

內科 院長 醫學博士 鈴木定藏

小兒科 部長 醫學士 木下基一

皮膚泌尿科 副院長 醫學士 横山喜俊

產婦人科 部長 醫學士 池谷宗三郎

レントゲン科 部長 醫學士 横山喜俊

物理療法科 技師 岡田重德

藥劑科 部長 藥劑師 吉本孝平

診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄

(夜間診療に従事ス)(急患ハ此ノ限リニアラズ)

往診隨時 病室完備 入院隨時自炊ノ便アリ

祝七周年 ★☆☆☆☆★ ★☆☆☆☆★ ★☆☆☆☆★ ★☆☆☆☆★ ★☆☆☆☆★		平町 吉伴製作所 電二二五番	平南町角 萩原申八	平町三丁目 横山彰介商店 電六、九四番	平町前 住吉屋支店 電一四九番	平町前 住吉屋分店 電六六番	平紺屋町 住吉屋本店 電一五九番	平二丁目 山田忠太郎	田町驛前 平運輸株式會社	田町大通り 志賀材木店 電五九三番	平町一丁目 和久井屋漆器店 電四〇五番
平町三丁目 なかや洋服店 電二〇三番	平大工町 中川材木店 電五五六番 愛澤長資	平大工町 多田井笑次郎 電九九一	平町前 請負強口唯七郎 電二八二番	平町 中野齒科醫院 電五〇九番	南町 織田齒科醫院 電四一六番	平紺田町 金成醫院 電三五八番	平紺田町 金成國雅 電二六六番	平町一丁目 坂本紙店 電話一八番	平町一丁目 和久井屋漆器店 電四〇五番	平町一丁目 和久井屋漆器店 電四〇五番	平町一丁目 和久井屋漆器店 電四〇五番
平町三丁目 吉村安次郎 電二五七番	同 白萩酒店 電四四三番	平紺屋町 日本簡平駐在所 主任 鈴木昇 易火災	平三丁目 三井吳服店 電話三八、二八四番	平新田町 蓬來亭 赤塚彦治 電三三二番	平二丁目 白土屋商店	平紺通 玉よし 電四二六番	平町前 野崎自動車部 電三四三番	平町七丁目通り 粉問屋 佐藤佐一郎	平町七丁目通り 粉問屋 佐藤佐一郎	平町七丁目通り 粉問屋 佐藤佐一郎	平町七丁目通り 粉問屋 佐藤佐一郎
平古銀治町 好問軌道株式會社 專務 山崎佐市郎	平三丁目 丸はん 電三五九	平四丁目 山光堂 花 電五五〇	平三丁目 太丸屋 電二三	平町才樋小路 佐藤材木店 電三三五	熱心湯 電二〇五	平町前 寫眞サクラ	平五丁目 一材木店	平町會議員 荒川淺次郎 平町六丁目	平町會議員 荒川淺次郎 平町六丁目	平町會議員 荒川淺次郎 平町六丁目	平町會議員 荒川淺次郎 平町六丁目
平新川町 石川屋商店	平町田町通り 末廣 電二二	平町二丁目 日東商會 電四二八	福島モーター商會 平出張所長 柴田祥平	平町一丁目 水野藥局 電六九九	平一丁目川岸通り 二葉屋和洋店 店主 池尾六治	平仲町 阿部新卸商店 電六〇三	町長 小野晋平 助役 高木保 收入役 樋口速 小名濱町役場	平四丁目 丸市屋魚店	平四丁目 丸市屋魚店	平四丁目 丸市屋魚店	平四丁目 丸市屋魚店
平四丁目 鶴屋 電一一四	平町時計商組合 組合長 大谷武雄	平町驛前 神谷富五郎商店 電一六九	平町古研區長 木澤常松	平町聚樂館トナリ 野木履物店	平三丁目 大黒屋勝次商店 電一一六	平新川町 木村電氣商會 電一七九	平四丁目 入江商店 電五八二	湯本町 樋口看護婦學校 電話一〇八番	湯本町 樋口看護婦學校 電話一〇八番	湯本町 樋口看護婦學校 電話一〇八番	湯本町 樋口看護婦學校 電話一〇八番
赤井村々會議員 古市喜三郎	福島炭礦々長 菊地德太郎	平町二丁目 根本時計店 電六〇七	平南町通り 井坂辰之助商店 電二四三	平四丁目 小野屋藥店	平町五丁目 武子屋 電六八	平新川町 和洋金物卸問屋	平四丁目 釜屋商店 磐城平町五丁目 電話九番・九九番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番
平町仲町 綠川材木店 電四四四	平町三丁目 平タクシ 電七十九	平四丁目 株式百澤商店	平四丁目 渡部米穀店	平紺屋町 清水屋旅館 木村清次郎	平大工町鐵道官舎前 かわり食堂	平町五丁目 和洋金物卸問屋	平町五丁目 釜屋商店 磐城平町五丁目 電話九番・九九番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番	平町四丁目 關内藥局 藥劑師 關内榮助 電話四〇番